

令和2年度事業計画

1 公益目的事業について

事業番号	事業の内容
公1	普及啓発・研修会事業

[事業の概要について]

1 趣旨

肢体不自由児者の自立と連帯のための普及啓発を促進し、自立支援のための研修会を行うことにより、肢体不自由児者の福祉に寄与するため、次の事業を行う。

2 事業

(1) 作品募集・表彰等

北海道の補助金等により、「手足の不自由な子どもを育てる運動」を促進するほか、当該運動の一環として、手足の不自由な児童・生徒の作品（作文・詩、図画、書道、手芸工作）及び手足の不自由な友に贈る友情の作品（作文・詩、図画）を募集し、優秀作品を表彰する。

[周知方法] 道内の特別支援学級がある小中学校・養護学校協力小中学校・肢体不自由養護学校に実施要綱を通知する。

[選考方法] 選考委員に、元大学教授、現職の養護学校長、療育施設関係者、行政並びに教育関係職員等の各作品分野の有識者8名を選任して審査・選考する。

[元年度実績] 応募総数 15校・436点、入賞作品 57点

(2) 絵はがき等による募金

「友情の絵はがき」、「愛の絵はがき」等を学校等に頒布した収益（募金）を、公益目的事業の費用に充当する。

[周知方法等] 実施要領により、事業の趣旨、概要、絵はがき等の頒布単価等を、道及び市町村行政関係、養護学校、自衛隊、福祉関係者等約300箇所に通知して協力を依頼する。

[頒布単価] 絵はがき～1組100円、クリアファイル～1枚150円及び200円(2WAY)

[元年度実績] 募金申込件数 249件、募金総額 1,492,279円

(3) 第32回全道肢体不自由児者福祉大会（旭川大会）の開催

北海道や関係市町村の補助金等により、全道各地域を会場として、肢体不自由児者福祉大会及び肢体不自由児者研究大会をそれぞれ隔年で開催し、肢体不自由児者の福祉に関する研修や情報の交換等を行うとともに、行政機関に対しての要請事項の決議を行う。開催に当たっては、開催要綱に基づき、北海道をはじめ各市町村、教育委員会、肢体不自由養護学校、関係福祉施設、各地域の肢体不自由児者父母の会（以下「父母の会」という。）等へ案内を通知する。

[2年度計画]

・第32回全道肢体不自由児者福祉大会（旭川大会）

日 時：令和2年10月3日（土）、4日（日）

開催場所：旭川市（市障害者福祉センター）

参 集：約300人（予定）

内 容：講演、意見・情報交換 等

(4) 会報の発行

当法人の事業内容、父母の会の活動等を紹介し、肢体不自由児者に対する理解を深めることを目的として、協力会員会費等により、会報「道肢連協」を年4回発行し、各地域父母の会の会員、関係機関、関係団体等へ配付する。

[配付先] 各地域父母の会、道及び各市町村、教育・医療・福祉関係機関・施設、その他協力会員及び協力者 等

[発行部数] 総数 1,300部

(5) 通園施設等職員研修会

障害の重度化、重複化に対応した知識・技能の向上を図るため、北海道の補助金等により、道立の医療・療育専門センターの協力を得て開催する。

[対象者] 道内の発達支援センター、母子通園センター、福祉施設、保育所、養護学校等において、肢体不自由の児童を日常的に処遇している職員並びに行政関係職員等。

[周知方法・周知先] 前記の対象先約150箇所に開催要綱により通知する。

[2年度計画]

・「令和2年度肢体不自由児通園施設職員等研修会」

日 時：令和2年7月4日（土）

開催場所：旭川市（道立旭川肢体不自由児総合療育センター）

参加対象：前記の「対象者」（参加定員40名）

令和2年度事業計画

1 公益目的事業について

事業番号	事業の内容
公2	療育・社会参加・奨学金等事業

[事業の概要について]

1 趣旨

肢体不自由児者の社会自立と社会参加を促進するため、レクリエーション活動や療育キャンプを行うほか、肢体不自由養護学校の高校生の修学意欲の向上を図るため、奨学金をを交付する。また、肢体不自由児者の生活の向上を図るため、肢体不自由児者又はその家族の方々が抱える問題について、電話等の相談に対応する。

2 事業

(1) レクリエーション活動

肢体不自由児者の自立と社会参加を促進するために、ボランティアの参加を得ながらスポーツやレジャーなどレクリエーション活動を行い、地域の住民を含めた参加者の交流を図る事業を実施する地域の父母の会等に対し、北海道の補助金等により、事業に要する費用の助成、その他の支援を行う。(令和2年度助成予定:1,400千円)

[周知方法・周知先] 事業計画及び「レクリエーション活動事業実施要綱」を当協会ホームページに掲載して周知する。

[元年度実施結果] 助成先・23団体

(参加者:肢体不自由児者617人、家族等1,735人、合計2,352人)

(2) 療育キャンプ

在宅肢体不自由児者が日常生活能力や社会活動等への参加能力を身につけるため、療育に関する相談、療育知識の向上と訓練技術の獲得を目指すとともに、肢体不自由児者を持つ親が一堂に会して交流を深めることを目的とし療育キャンプを実施する父母の会等に対し、北海道の補助金等により、事業に要する費用の助成、その他の支援を行う。キャンプにおける、診察、療育、機能訓練、相談等を担う療育スタッフの確保にかかる関係機関との調整等については道肢連協が行う。(令和2年度助成予定:800千円)

[周知方法・周知先] 事業計画及び「療育キャンプ事業実施要綱」を当協会ホームページに掲載し周知する。

[元年度実施結果] 助成先・14団体(参加者:肢体不自由児者165人、家族等447人、合計642人)

(3) 奨学金の交付

肢体不自由養護学校に在籍する経済的に困難な状況にある高校生に対し、当協会の「岩田・アメフト育英基金」から奨学金を交付し、修学意欲の向上を図る。

[周知方法・周知先] 高校生が在籍する道内の肢体不自由養護学校へ文書により通知する。

[基金管理運営委員会] 小学・中学・高校・私立中高各校長会会、肢体不自由養護学校、医療・療育機関、道及び道教育庁等の学識経験者14名。

[2年度交付予定人員・交付予定額] 13名(1人あたり30,000円)390千円

【岩田・アメフト肢体不自由児者育英基金】

・昭和56年に、岩田建設株式会社(当時)社長・岩田徳治氏より、肢体不自由児者の福祉向上に役立ててほしいとの趣旨で10,000千円の寄付があり、この寄付金を基に「岩田肢体不自由児者育英基金」を設置して、その預金利子等により奨学金の交付を行っていたものと、昭和53年より、北海道アメリカンフットボール協会が、肢体不自由児者支援のチャリティーとして「ポテトボウル」を開催し、その益金から当協会へ寄付をいただき、この寄付金の一部を「アメリカンフットボール育英基金」として積み立てて奨学金事業の経費等に当てていたものを、令和25年度から「岩田・アメフト肢体不自由児者育英基金」として一体化して奨学金の交付等を行っている。

(4) 悩み相談電話

肢体不自由児者の生活の向上を図るため、肢体不自由児者又はその家族の方々が抱える問題等について、道肢連協事務局職員が電話等の相談に対応する。

令和2年度事業計画

2 収益事業について

事業番号	事業の内容
収1	自動販売機の設置運営事業

[事業の概要について]

各地域の肢体不自由児者父母の会等と連携して、道内の公共施設等への清涼飲料水自動販売機の設置を仲介し、その売り上げの一部を収益として得て、公益事業に充当している。

[自動販売機の設置台数] 令和元年度末 117台

[主な設置場所] 北海道庁、札幌市役所、渡島・後志・空知・留萌・十勝総合振興局、北海道立総合体育センター（きたえ〜る）、帯広100年記念館、北海道警察学校、旭川神楽市民交流センター、北見市温水プール、函館高等技術専門学院、滝川市役所、富良野市福祉センター、岩見沢高等養護学校等

令和2年度事業計画

3 その他の事業（相互扶助等事業）について

事業番号	事業の内容
他1	全国大会への派遣等

[事業の概要について]

1 趣旨

会員相互の連帯の強化及び会員の地域活動の環境作りを図るため、次の事業を行う。

2 事業

(1) 全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会への派遣

北海道の補助金等により、父母の会会員を全国大会へ派遣する費用の助成。

[2年度全国大会]

日時：令和2年9月19日（土）～20日（日）

場所：宮崎県宮崎市

参集：全国父母の会会員、関係機関、諸団体等1000人

(2) 周年記念事業の実施等（記念事業等助成事業）

各地域の父母の会が実施する、設立（創立）10周年以上の「周年記念事業等」で、記念式典、記念の研修・講演会、記念誌の発行、記念祝賀会等を開催する事業に要する経費を助成する。

<助成額> 10周年 30,000円、20周年以上 50,000円

(3) 全肢連北海道ブロック地域指導者養成研修会

地域における父母の会活動の活性化と指導者の育成を図るため、全国肢体不自由児者父母の会連合会と共催で、北海道の補助金等により北海道ブロック研修会を開催する。

[2年度計画]

期日：令和2年10月31日（土）～11月1日（土）

場所：札幌市（道立道民活動センター）

参集：全道父母の会会員25名及び役員等10名

(4) 父母の会会長研修会

北海道の補助金等により、地域の各父母の会が抱える課題をテーマに研修会等を開催し、各父母の会の事業活動の活性化を図る。

[2年度計画]

・第1回：令和2年6月6日（土）札幌市（道立道民活動センター）参加者30名

・第2回：令和2年11月 札幌市（道立道民活動センター）参加者30名

(5) ボランティアヘルパー研修等事業

在宅の肢体不自由児者の校外活動や身辺自立を図るため、旭川、室蘭の各父母の会に登録されている学生等のボランティアヘルパーを、各父母の会が対象児の家庭に派遣する事業費を、北海道の補助金等により助成するほか、ヘルパー活動の充実と活性化を図るため、地区ごとにボランティア研修会を開催する。

[2年度計画]

・研修会

日 時：令和2年（未定）

参加者：当協会に登録の学生等ボランティア（20名）

開催場所：4地区（予定）